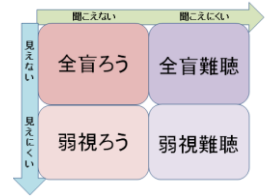


# 特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査報告

一人一人の障害の状態はさまざま、コミュニケーション方法もさまざまな  
視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろうの子どもたち

## 盲ろうとは

視覚と聴覚の両方に障害を有する状態を「盲ろう」と言いますが、その障害の状態や程度は様々です。見え方と聞こえ方の組み合わせによって、全く見えず聞こえない状態の「全盲ろう」、全く見えず聞こえにくい状態の「全盲難聴」、見えにくく聞こえない状態の「弱視ろう」、見えにくく聞こえにくい状態の「弱視難聴」という4つのタイプに大別されます。



## 調査について

### 調査の目的

全国の特別支援学校に在籍している盲ろう幼児児童生徒の在籍数、障害の状態、コミュニケーション方法、学習形態等の実態を明らかにするとともに、担当者の研修に対する要望や課題を把握し、支援体制検討の基礎資料とする。

**調査対象:** 全国の特別支援学校(悉皆調査)

**調査期間:** 平成29年9月1日～平成30年3月31日

**調査方法:** 郵送による質問紙調査 (平成29年5月1日現在で回答)

※ 調査の対象となる盲ろう幼児児童生徒の視覚障害及び聴覚障害の状態については、特別支援学校の対象となる「学校教育法施行令22条の3」を基準とし、視覚障害及び聴覚障害の他に、知的障害、肢体不自由、病弱など他の障害を併せ有する幼児児童生徒も対象とした。

## 調査結果について

調査票発送数: 1025

調査票回収数: 828(回収率80.8%)

(1) 在籍している学校数 : 166校

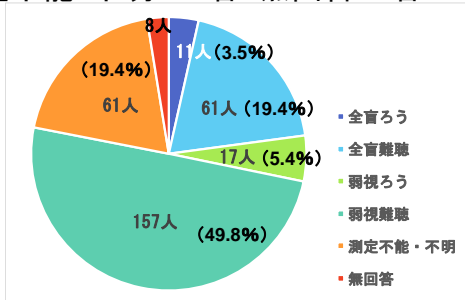
(視28 聴20 知27 肢26 病5 知・肢26など)

(2) 在籍する盲ろう幼児児童生徒数: 315名が特定

全盲ろう: 11名 全盲難聴: 61名

弱視ろう: 17名 弱視難聴: 157名

測定不能・不明: 61名 無回答: 8名



(3) 盲ろう幼児児童生徒の障害の状態について

視覚と聴覚以外にも障害がある 271名(86.0%)

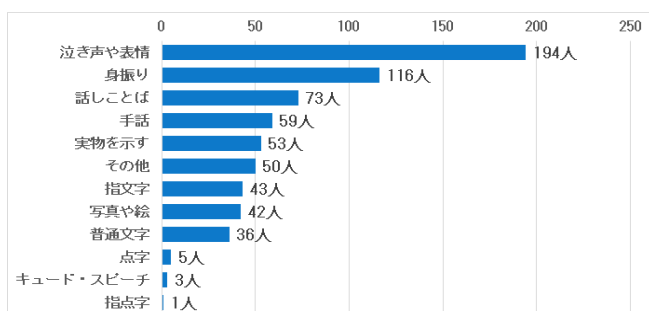
\* 知・肢117名 知56名 知・肢・病40名など

医療的ケアの必要性

必要である 136名(43.2%)

(4) 幼児児童生徒の主なコミュニケーション方法

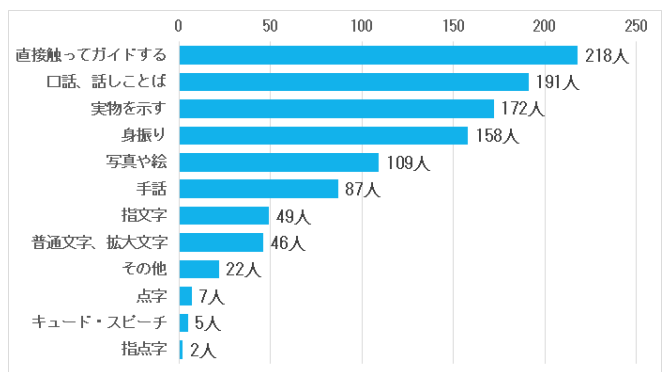
【幼児児童生徒の発信方法】 \* 複数回答可



\* 調査結果の詳細については、以下からご覧ください。

<http://www.nise.go.jp/nc/news/2018/0726>

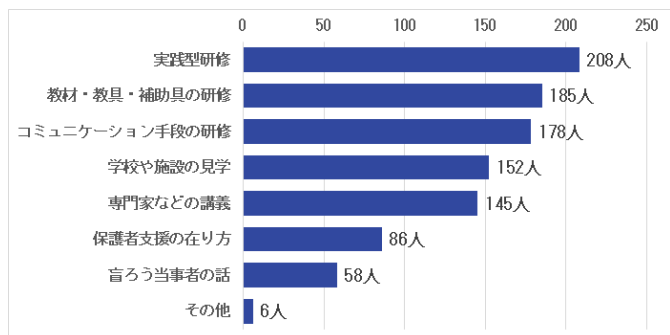
(5) 担当する教員の主なコミュニケーション方法  
【幼児児童生徒の受信方法】 \* 複数回答可



(6) 盲ろう教育に関する研修について

研修の必要性を感じている: 88.3%

(7) 希望する研修の内容について \* 複数回答可



### 実態調査の結果を踏まえた研究所の取組

- 盲ろう教育実践セミナー (6月に実施 全国から50名参加、来年度については地方開催も検討)
- 専門研修(視・聴・知・肢・病)における盲ろう教育に関する講義
- 講義配信 4. 各学校等での研修 5. 情報発信 などの取組